

最近園長便りを出しそびれていました。久しぶりに書きました。

11月に2名の園児が入園していただき、元気に活動に参加しています。にこにこ笑顔で、園内の人気者になっています。お姉さん・お兄さんたちもお世話をしたくて関係を持とうと、近づいて声をかけたり、お世話をしている姿がよく見られます。仲間を思いやる気持ちが育っているようです。新しく入園した友達にとっては、自分が周りに見てもらっている、周りのみんなが優しくしてくれる、等人との関わりを感じたり、他の人の優しさを感じることで、自分の存在に気づくとともに、自分が大切にされていることを感じると思います。そのような積み重ねが、自己肯定感を高めると考えています。ひまわりこども園には、そのような非認知能力を育てる機会がたくさんあります。年齢に異なる子ども達と一緒に生活することで、先ほどのような思いやりが出来ます。私たちが幼いころは、家族も多く、周りに多

くの子ども達がありました。自然にみんなが集まり、年長者を中心に遊んでいました。小さな子ども達に合わせたルールを設定して、同じ遊びを一緒に楽しめるように工夫してくれました。そのような環境の中で、年長者が年下の子ども守り、時には注意しながら、年下の子は年長者への憧れを持ちながら、自分が年長になったら、同じような関わりを年下の子にしていました。このような中で、自分を大切にす、自分は大切にされているという大切な気持ちを学んでいました。今ひまわりこども園では、そのような大切な学びができていくことに、将来の子ども達の希望と期待、人や周りの全てのものへの優しさを感じます。この子ども達の夢のある将来を見守って行きたいと心から思います。

園の周りには、優しい環境を準備したいと花やイチゴを栽培しています。子ども達も毎日見ながら、花が咲く様子やイチゴが赤くな

〈大切にしたい考え方〉

- 子どもの主体性を高める
幼児教育
- 興味関心を大きくする環
境構成
- 生活の場としての園生活

ひまわり 10

元気な子どもたちとともに

〈教育目標〉

元気で思いやりのある ひまわりっ子

〈職員目標〉

- チームワーク
- 主体性を育む保
育
- 資質向上

る様子を楽しみに見えています。中には、イチゴ、イチゴと家に帰って話をする子どももいるようです。家庭での話題の一つになっていることはとてもありがたいことです。「子どもがよく話すので、一緒にイチゴを育てたい」と話されたお母さんもいらっしやると聞きました。きっと子どもは嬉しいだろうと、お母さんの言葉に感心することでした。

先日は、花を一生懸命見ている子がいたので、そっと声をかけてみました。「お花をさがしているの」何かするの、「お母さんに持って帰って、プレゼントするの」 そう言いながら、いくつもある花の中から「ピンクのさくらそう」を選びました。茎がスーと伸びて、環状にピンクの花が咲いていました。お母さんにプレゼントしたいと想う一心で選んでいる姿がかわいらしくて、しばらく見っていました。決めると「これでいい」と告げたので、摘んであげると大事そうに部屋に

持って行きました。忘れないようにかばん棚にそっと置いて遊びに行きました。きっとお家では、お父さん・お母さんが愛情いっぱい子育てしていらしゃるのだろうと考えることでした。そんな気持ちで育っているの、ご両親の安全基地から、一歩前を出て、色々なことに自信をもって挑戦していくことと思います。子育ては第一義的に保護者の責任の下進められます。わが子を想う気持ちで愛情を注がれた子どもは、自分は大切にされている、自分は愛されている・・・等の気持ちが膨らみ自己肯定感の高い子どもに育っていくと思っています。ひまわりこども園では、家庭の延長になるように、愛着関係を育み、保育者が安全基地になり、子ども達が自信をもって活動できるように保育活動を進めています。子ども達の行きたいこども園、保護者が安心して預けられるこども園をめざして頑張ります。